



# 共生の時代

'11  
7月

●発行:グリーンコープ共同体育理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多3階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



言語・発達相談員

## 植草 みどりさん

植草さんが言語・発達相談員になったきっかけは、高校時代の先生の話を興味を抱き、施設見学に参加した。それまで障がい児と身近に接する経験がなかった植草さんは大きなショックを受けた。「なぜあんな行動をとるんだろう?」「なぜあんな行動をとるんだろう?」。障がい児と関わりあう中で、心身障がいについて学ぶという進路が見えてきた。

大学時代は、ボランティア活動で障がい児と関わった。ダウン症や、重度の障がいのある子どもがおもちゃに反応を示したことから、コミュニケーションツールとしておもちゃが重要な役割を果たしていることに気付く。「ただおもちゃを用意すればいいというわけではないんですよ。おもちゃがその場を取り巻く雰囲気や和らげたり、遊ぶ中で一体感をつくりあげること、

子どもの表情や反応に変化が表れるんです。普段表情の見えなかった子が笑顔を見せた時、驚きと嬉しいうらみを感じました」と植草さん。また、障がいや発達に悩む親子は、なかなか公共の場を利用しにくいのが現状。障がい児や地域の子どもたちが交流しながら、親子で安心して楽しめる「おもちゃ図書館」の活動を知り、「このような場が、もっと地域の中に必要ではないだろうか」と考えた。大学卒業後、さらに専門的に学びたいという思いで、言語・発達相談員として施設で働いていたが、自らの子育てでも考えて、フリーランスで相談を受けながら「おもちゃ図書館」をやりたいと退職。

1991年「八代なかよしおもちゃ図書館」を開設した。おもちゃの無料貸出しの他、障がい児の療育や共同保育、コンサートや講演会などに取り組んできた。「自分が子育てを経験するまでは、相談者の親の気持ちが見えていませ

「これまでのたくさんの出会いが活動を大きく広げてくれました。これからもできる限りたくさんのおもちゃの魅力を伝えたいです」と話す植草さん。その眼差しは温かい。

### プロフィール

大分県生まれ、千葉県育ち、熊本県在住。夫、夫の母、長男(中1)、長女(小3)の5人家族。八代市子育て支援センターや、こどもプラザで子育て支援アドバイザーを務める。グリーンコープ生協くまもと組合員

## おもちゃは子どもたちを元気にする

シャボン玉月間

みんなでせっけん生活を!



67面に関連記事

### Contents

フランスの多重債務対策調査レポート③ さまざまな問題に対応する社会アクションセンター	2
うちのメーカー・うちの生産者⑩ ポーソー油脂(株)コンパクトお洗濯のしゃぼん お洗濯のしゃぼんウォッシュアップ	3
グリーンコープ共同第五期通常総会 グリーンコープ連合第十九期通常総会 グリーンコープ共済連第二期通常総会	
共同体だからこそ描ける未来 グリーンコープだからこそ出会う人 助けあい支えあいを基に連帯を深め、さらに広げていこう	4・5
委員会内せっけん学習会 シャボン玉フォーラム in 埼玉	
大好きなせっけんをもっと伝えたい!	6・7
さらに強めよう! 遺伝子組み換え問題への取り組みを	8・9
東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故に関する特別決議	10
東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能調査結果②	11

グリーンコープでは多くの人の出会いがあり、出会いを通じていろんなことを教えてもらっています。つながりがどんどん広がっていくのも嬉しいですね。自分一人ではできないことも、みんなで知恵を出しあい、協力することでできるようになっていく。もっともっとたくさんの人とつながり、困難なことでも可能にしていけたらと思います。今でも東日本大震災で被災された方や原発の事故で避難されている方々、そして子どもたちのこと。長い避難所での生活や先行きの見えない暮らし、どれほど不安かと思うと心が痛みます。またこれだけ時間が経っても、支援が行き届いていない所があることを知ると歯がゆい思いです。復興までには長い年月がかかります。ですが、少しでも早く安心して生活ができるように、みんなで力を合わせていきたい。

まずは自分の生活を見直し、何ができるのかを考え、できる支援を続けていきたいと思っています。

グリーンコープ生協おさか理事 藤原 登美子

さまざまな問題に対応する社会アクションセンター

多機能な相談窓口  
パリ市社会アクションセンター

2010年11月、グリーンコープの生活再生事業は、フランス共和国の多重債務者の救済と再発防止のすぐれた取り組みを学び、事業に生かすために第二次フランス調査に取り組みました。シリーズ第1回(3月号)では生活困窮者に寄り添い支援する銀行の活動について、シリーズ第2回(6月号)は金融機関と連携しているNPOの取り組みについて報告しました。

最終回では、パリ市社会アクションセンターの活動と今回の調査のまとめを報告します。

フランスの多重債務対策  
生活再生相談員  
現地調査レポート  
シリーズ③



パリ市アクションセンターの指導員



左から4人目が中島さん、5人目が北島さん

社会アクションセンターは、貧困や経済的問題、障がい者、高齢者、住宅などさまざまな問題全般に対応する多機能な公的組織で、福祉に関する総合相談機能も持っている。ここでは、相談に訪れた人に対する直接的な相談支援が行われており、支援に必要となる行政や司法、多重債務委員会、金融機関などの機関への対応や仲介の窓口としての役割も果たしている。

しかし、家計の問題を抜きに支援を行うことは不可能であるというのが基本的な考え方だ。家計管理の大切さを理解してもらうためにも、簡易家計簿をはじめとするいろいろなツールを使いながらアドバースをしていくことになる。その結果、相談者本人が自らの弱点や欠点に気づき、自立した生活を送れるようになることを目標にしている。

1カ月に60〜80人の相談者が訪れ、1人の相談者に3〜4カ月、時には1年間に及ぶ継続した指導・寄り添いとなることもある。初回面談で相談者の生活状況をおおよそ把握し、今後の方針を相談者と共に決定し、丁寧に寄り添い活動をしている。どのような相談においても必ず「家計」の問題に突き当たる。しかし、家計問題は個人的なことだからと、相談者によっては積極的ではないこともある。

また、多重債務予防の観点からも、深刻になる前の取り組みが大切として、家計管理の重要性と多重債務問題に関心を持ってもらう取り組みもされている。指導員の内部研修も行われており、週に一度は事例検討会を開催している。出張相談会の開催、銀行とのジョイントで銀行の機能についての講座やさまざまな関係機関との連携を図るための討論会の開催等がされている。

今回、パリ市12区の社会アクションセンターで7人の家庭経済カウンセラーに集まっていただき、具体的な事例を聞くことで、社会アクションセンターの取り組み状況を知ることができた。相談者が生活に困窮している状況には消費という個人的な問題もあるが、金融商品の利用を促す社会的な問題も多重債務を引き起こす原因となっている。相談に来る人たちは銀行がどのように機能しているのか全く知らない状況である。そのような中で指導員たちが間に入り、支援を行い理解を深めていっている。また、家計管理の指導により自立していくようすが事例を通じて紹介された。相談者の背景に、孤立し、肉体的にも精神的にも弱りきり、支払いを続けているようすが伺えた。一人ひとりに寄り添い相談者の生活の再生支援にさまざまな提案を丁寧に我々強く対応している。家計管理が全く分からない人々が多い中で寄り添っていく取り組みは、とても重要な社会アクションセンターの役割である。

質疑応答で分かったこと

Q サポートは多重債務委員会に資料を提出し、減額や金利の引き下げ等の結論が出て終了ですか？

A 終わりではない。当初からすると家計管理がかなり理解できるような状況に変化しているが、本人が希望すれば付き添いを継続する。そういった意味で本人が家計管理を自立してできなくなった時を支援が終了したと考える。

Q 相談を受ける上で大切にしていることは何ですか？

A 信頼関係をつくること。そうすることでリラックスして自分のことを話すことができるとなる。Q マイクロクレジット(少額貸付)についてどう思われますか？

A 社会に出る(起業・資格取得・就職のための車購入)のための貸付は必要であるが、フランスは制度が整っているからそれほど必要が無い。

フランスと日本では貸付に対する考え方の違いはあるが、相談者に対する寄り添いのあり方に感激した。グリーンコープ生活再生相談室が取り組んでいる寄り添いはフランスの生活再生に取り組み指導員と同じである。そして、私たちにまだまだできることがあると強く思った。

熊本生活再生相談室相談員  
中島明美

第二次フランス調査報告まとめ

相談者と共に問題に取り組む姿に共感し、  
勇気をもらった

今回2回目となるフランス調査が1回目と大きく違っていたのは、まず調査研究を行ったのが相談の現場を担っている私たち相談員自身であったこと、次にその訪問先、対応者がマイクロクレジットを実際に行っている金融機関の担当者であること、生活困窮者を支援するNPOの相談員であったことである。ともなう、その調査内容も、より具体的な活動のようすや内容に関することが多かった。

フランスでは2008年から、マイクロクレジットに国全体で取り組まれ、通勤用の車の整備や住宅環境の改善などの就労のために必要な手立てとして、必要な資金を誰かが借りることができるようになると位置づけられている。そのためにも、さまざまな団体、立場の人々が葛藤しながら取り組んでいる姿は、グリーンコープの相談室と重なることが多かった。

フランスと日本の大きな違いは、まずは、国と金融機関が資金を50%ずつ拠出し、貸付け後の不良債権に対応する「社会団結基金」があること。この不良債権(焦げ付き)に対処する仕組みは私たちが今、もっとも必要としている仕組みの一つである。貸付け後、会社倒産や、給与、ボーナスのカットは現実起こり、返済が困難になる人はいる。そうなる場合のリスクを考えると、貸付けは実行できない。貸付けができなければ、解決の糸口が見つからないことになり、私たちは焦げ付きを予想して貸付けはしないが、万が一のことを考えて、保証機関の設立は行政にせよ、NPOの相談員が、さまざまな公的支援を紹介して解決に導くことが基本、という話はとてもうらやましく思った。

社会や制度など状況の違いはあっても、相談者との信頼関係をつくりながらその人の意思を尊重すること、定期面談の約束をしていてもそれが必要な人ほど会えない苦労、手探り状態の家計管理教育の手法など、相談員としての悩みや葛藤は私たちが共通するところが多く共感できた。

5年目を迎えたグリーンコープの生活再生事業は、ようやく、福岡県以外の地方自治体からの支援も実現できてきた。それでもまだまだ不十分で、経済的な問題を抱えた人々の問題はさらに深刻化していると感じている。そんな中で遠くヨーロッパの地でも同じように真剣に相談者に向きあい、何とか手助けしたい、と努力している人たちがいることが分かり、私たちは非常に心強く、勇気をもらえた調査となった。

福岡生活再生相談室相談員  
北島千恵

# 人と環境にやさしい

## コンパクトお洗濯のしゃぼん お洗濯のしゃぼんウォッシュアップ

うちのメーカー

109

ポーソー油脂(株)  
神奈川県平塚市  
クミアイ油脂(株)  
平塚工場

うちの生産者

グリーンコープはずっと水環境と人に優しいせっけんの利用をすすめてきました。7月はせっけんの利用を広げるためのシャボン玉月間です。せっけん類などの製造メーカーであるポーソー油脂(株)は、グリーンコープの前身生協の頃から30年以上共に歩んできました。今回はポーソー油脂の粉せっけんの製造工場、クミアイ油脂(株)平塚工場を訪れ、井上直久さん(クミアイ油脂生産部長)と新中薫さん(ポーソー油脂(株)営業本部家庭用品課長)に話を聞きました。



井上 直久さん 新中 薫さん

### コンパクトお洗濯のしゃぼんができるまで

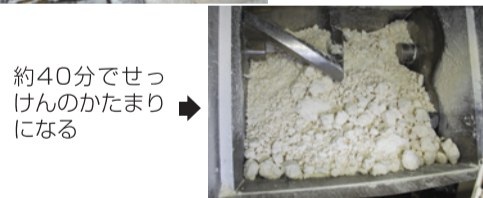


**貯蔵タンク**  
ポーソー油脂の他の工場から粗脂肪酸が運ばれてくる

**蒸留機**  
よいせっけんを作るためには、高品質の脂肪酸が必要のため、粗脂肪酸を蒸留し蒸留脂肪酸を作る。さらに水蒸気を吹きつけ、色・臭いを取り除き脱臭脂肪酸ができる



**ソーダ機**  
苛性ソーダと炭酸ソーダを加え攪拌する(中和法)



約40分でせっけんのかたまりになる



**造粒機**  
内部にあるメッシュの目の大きさを調節し、粒子を揃える

充てん



箱詰め

クミアイ油脂(株)は1969年、神奈川県平塚市に設立。グリーンコープのコンパクトお洗濯のしゃぼん(無香料・香料入り)、お洗濯のしゃぼんウォッシュアップ(無香料・香料入り)の製造を行っている。

温度や湿度が大きく影響する、粉せっけんの製造

1975年からせっけん製品の製造に着手。合成洗剤が市場の95%を超えるシェアを占める中で、安心で安全なせっけんを作り続けている。

ポーソー油脂(株)は、1947年、米油の搾油メーカーとして創業。日本人の主食である米を無駄なく生かし、暮らしに役立つ商品として社会に提供することが社是。米を精米すると重量の約10%の米ヌカができる。その米ヌカを原料に、食用油やせっけんなどにさまざまな製品が作られている。米ヌカから搾油する過程でできる食用に不適な粗脂肪酸は、オレイン酸やリノール酸を多く含むせっけんに適していることから、1975年からせっけん製品の製造に着手。合成洗剤が市場の95%を超えるシェアを占める中で、安心で安全なせっけんを作り続けている。

米を無駄なく使い切る

「梅雨の時期など湿度の高い時は、計量器の中に粉せっけんが付着しやすく、計量不足になりやすかったり、ラインがうまく流れなかったりで、頻りに機械の調整が必要になります」と井上さんは作業の様子を話す。「年間を通してだいたい週1回のペースで製造。東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で、夏場の節電が予測されますから、

粉せっけんの製造には湿度が大きく影響する。特に気温が30度を超えると、工場内の湿度が高くなり、粉せっけんの粒子が不均等になることから製造が難しくなる。お洗濯のしゃぼんウォッシュアップは粉の粒子が細かいことから、湿度や湿度に配慮して、一年を通じて製造は夜間に行う。「梅雨の時期など湿度の高い時は、計量器の中に粉せっけんが付着しやすく、計量不足になりやすかったり、ラインがうまく流れなかったりで、頻りに機械の調整が必要になります」と井上さんは作業の様子を話す。「年間を通してだいたい週1回のペースで製造。東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で、夏場の節電が予測されますから、

現在、18人(職員・パート職員)が製造に携わっている。平塚工場に届く、ポーソー油脂の食油工場できた粗脂肪酸で、1ヵ月平均60tの脱臭脂肪酸(米ヌカ脂肪酸)が製品化される。脱臭脂肪酸1に対して約2倍の量のせっけん製品ができる。粉せっけんの製造には湿度が大きく影響する。特に気温が30度を超えると、工場内の湿度が高くなり、粉せっけんの粒子が不均等になることから製造が難しくなる。お洗濯のしゃぼんウォッシュアップは粉の粒子が細かいことから、湿度や湿度に配慮して、一年を通じて製造は夜間に行う。「梅雨の時期など湿度の高い時は、計量器の中に粉せっけんが付着しやすく、計量不足になりやすかったり、ラインがうまく流れなかったりで、頻りに機械の調整が必要になります」と井上さんは作業の様子を話す。「年間を通してだいたい週1回のペースで製造。東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で、夏場の節電が予測されますから、

そのことも加味して、現在少し多めに製造しています」と新中さん。

より使いやすい粉せっけんに

せっけん類をもっと多くの組合員に利用してもらおうと、グリーンコープとポーソー油脂(株)とが協力して1997年に、コンパクトお洗濯のしゃぼん(無香料・香料入り)を開発した。開発に際しては合成洗剤を使っている若い組合員300人にアンケートを実施し、開発の参考にした。主原料である米ヌカ脂肪酸には、水に溶けやすく、洗浄力が高いオレイン酸がたくさん含まれているが、独特の臭いがある。米ヌカ脂肪酸を減らし、オレイン酸を新たに加えることで、標準使用量も減量でき、水溶性と洗浄力を高め、臭いも軽減することができた。また、臭いは、米ヌカ脂肪酸の蒸留時間を増やすなどして主原料も改善。いっそう使いやすい粉せっけんを開発することができた。

「毎日、機械油などで汚れた作業服を、会社で洗っています。油の汚れ落ちはバツグンですよ。せっけんの洗浄力は合成洗剤より

数段勝っています」と井上さんは自信を持って言う。「水環境の汚染の原因は、家庭排水が大きく占めています。洗濯などに使う洗剤がせっけんであれば、下水や川などに流れ込んでも1日で分解し、水を汚さず生態系への影響もありません。回りまわって自分たちの口に戻る水環境を守るためにも、せっけんの利用をもっと広げたいと思います」と新中さんは自然から生まれる自然に還る「せっけん」のよさを強調した。

### グリーンコープで取り扱っている ポーソー油脂の商品 (一部)



お(袋)香料入りコンパクトお洗濯のしゃぼん

お香料入りお洗濯のしゃぼんウォッシュアップ

お米ぬかせっけん(固形)すずらの香り

おファミリーシャンプー

お泡ファミリーシャンプー

# 来だからこそ出会う人、さらに広げていこう



採決の様子

## 基調総括

2011年6月15日、グリーンコープ共同体第五期通常総会とグリーンコープ連合第十九期通常総会、グリーンコープ共済連第二期通常総会が福岡市で開催され、約400人の組合員、職員が参加しました。2010年度総括と2011年度方針が提案され、すべての議案が賛成多数で可決・承認されました。

東日本が未曾有の大震災に見舞われ、世界経済が激変する中、グリーンコープは事業と運動の強化に取り組み、助けあい支えあうことが、より一層深く地域や社会の支えあいを拡げること、そのことが、グリーンコープ自体をさらに豊かに強くしていくこと、グリーンコープに集う組合員と組合員事務局、ワーカーズ、職員事務局が豊かにやさしく関係しあい、グリーンコープ運動と事業の主体を元気に担っていくことを確認しました。

併せて、東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて、特別決議(本紙10面掲載)を採択しました。また、全国ネット・グリーンコープ・生活クラブ東日本大震災被災者支援共同事業体の現地対策本部事務局長より、現地の支援のようすについての報告もありました。

## 新たな連帯の3年半の歩み



第一号議案を提案するグリーンコープ共同体専務理事 東原 晃一郎さん

グリーンコープ連合の19年の軌跡において獲得した「連帯は無条件である」という精神の下、2007年に「グリーンコープ共同体」が設立して3年半が過ぎました。オールグリーンコープすべての財産(ヒト・モノ・カネ・ノウハウ・チエ)を一体に生かしていける実

## 2010年度の私たちのグリーンコープ運動

グリーンコープが続けてきた食への運動を充実させ「安心」「安全」に加えて「安定」の確立に向かうため、生産者・メーカーとの関係を強化し、協力しながら産直畜産物や国産農産物の確保をめざしました。フードマイレージに取り組みはじめて1年が経過し、日常的な取り組みとして定着してきました。

生産者・メーカーとグリーンコープ、相互のアイデアと知恵を寄せ合って協同で取り組んだ「みんなで利用価格」。商品の質を落とさずに1円でも価格を下げるためのさまざまな工夫は、利用拡大につながりました。すべての単協が商品の開発・リニューアルに取り組み、商品利用の活性化につながっています。

4月に宮崎県で発生した口蹄疫、続いて島根県で発生した鳥インフルエンザでは、苦難に立ち向かう生産者とともに、この食べもの生命の危機を乗り越えていきたいと願い、カンパや応援メッセージを届けました。生産地・生産者が本来

の姿に戻るには時間がかかることを前提に、「これからも、みんなで利用し続けよう」とより強く呼びかけました。

赤とんぼ米A(無農薬米)の偽装の総括を通して、もう一度生産者と出会う機会があり、顔の見える関係のもう一段先にある、つくる人と食べる人の関係を大きな家族のようにつなぎ続けられるような強い関係をつくっていくことを確認しました。併行して、国産の農畜産物と生産者・生産地を守り抜いていく取り組みは丹念に続けてきました。

それぞれの単協の歴史や規模の違いを見据えた上で新しい連帯をかたちづくる力となる組合員と職員、ワーカーズを生かせる共同体を生み出すことを少しずつ実感できるようになってきました。

組合員主権を実現するための地域組合員総会の開催をめざすことには全単協開催実現の目的がたちました。グリーンコープの運動の主体である「組合員」が一人の組合員として存在し、自分たち自身で考え、相談でき、提案でき、実際にやれて、その喜びも苦しみも自分たち自身で分かちあえる関係を築く「組合員主権」をもう一度押さえ直すことが大切になります。

助けあい支えあう地域づくりの一環として、2010年5月に開所した抱樸館福岡。入居者が社会復帰に向かう就労訓練の場と位置づけ、2010年10月にスタートしたファイバーリサイクル事業との協働も実現しました。

スタートから5年目を迎

## グリーンコープのこれからについて

新たに広がり深まるグリーンコープの取り組みが、どのように「地域」で具体化、活性化していけるかを、これから次の段階に向けて確かめたいがらすすんでいこうと思います。お店共同購入については、お店を大きな共同購入と位置づけ、直接商品を手にとりて選べ、いつでも利用できるお店を、真に組合員のものにすべく、地域の組合員と運営を担うワーカーズがもう一段協同していくための検討をすすめていくこととなります。

幼稚園の存続を願う子どもたちや保護者に寄り添うことから、学校法人の設立と幼稚園の建設という新たな事業分野へ踏み出すことになりました。「なぜ教育か、なぜ学校法人か」の議論を丁寧に進め、グリーンコープらしい幼稚園づくりをすすめていくこととなります。また、2011年7月に、熊本市で認可外保育所、2012年4月には福岡市で認可保育所を新設します。

3月11日に起こった「東日本大震災」には、日常の延長の中で自然体で私たちにできる支援と支えあいに、例えれば若年層で収入の低い人たちが、高齢で買い物にも出られない人たちにグリーンコープの食へのものとグリーンコープの運動を共にすることができないかと考えています。

社会の激変を乗り越えるのは「助けあいと支えあい」を形にしていけることであると念じて頑張っていきたいと思っています。

えた生活再生事業は、6月の改正貸付法の完全施行もあり、その存在意義が再確認されました。多重債務者や経済的な困難を抱える相談者のセーフティネットの貸付窓口として、相談者に寄り添った対応に努めてきました。さらに相談員のワーカーズ化も実現しました。

日本コープ共済生活連合会に対しては、共済に加入する会員の権利の尊重と共済組合の精神から、意義を申し立てました。同時に自らも問い返しをし、グリーンコープらしい共済連をつくっていくことを確認しました。

くまもとで十数年に亘って取り組んできた阿蘇グリーンストック運動の広がりととして、「阿蘇草原再生基金」にオールグリーンコープで取り組んでいくことを確認しました。

## 第四期通常総会で選出された役員

<b>理事全体区</b> <b>田中 裕子</b> <small>共同体代表理事・さが理事長</small> <b>白木 豊彦</b> <small>共同体常務理事</small> <b>草場 広宣</b> <small>共同体常務理事</small> <b>鹿毛 優子</b> <small>共同体組合員事務局局長</small> <b>手島 真理子</b> <small>共同体商品検討委員長</small> <b>阿部 恭子</b> <small>共同体商品おすすめ委員長</small> <b>大橋 由美子</b> <small>共同体組織委員長</small> <b>松尾 由紀</b> <small>共同体福祉委員長</small>	<b>林 和子</b> <small>ひろしま理事長</small> <b>北島 修</b> <small>ひろしま専務理事</small> <b>松村 理津子</b> <small>やまぐち理事長</small> <b>工藤 正直</b> <small>くまもと専務理事</small> <b>伊藤 英穂</b> <small>中国地方事務局局長</small> <b>田原 幸子</b> <small>ふくおか理事長</small> <b>小川 ちはる</b> <small>ふくおか副理事長</small> <b>園田 由紀子</b> <small>ふくおか副理事長</small> <b>古賀 栄子</b> <small>ふくおか副理事長</small> <b>武岡 理恵</b> <small>ふくおか副理事長</small> <b>東原 晃一郎</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>宮崎 正義</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>加島 佳浩</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>大谷 昌己</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>横田 光博</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>中島 克哉</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>田中 豊実</b> <small>ふくおか専務理事</small> <b>福岡 里美</b> <small>さが副理事長</small>	<b>野中 雅則</b> <small>さが専務理事</small> <b>高橋 純子</b> <small>(長崎) 理事長</small> <b>松本 弘信</b> <small>(長崎) 専務理事</small> <b>久米田 薫</b> <small>くまもと理事長</small> <b>赤星 聖美</b> <small>くまもと副理事長</small> <b>牧 幸子</b> <small>くまもと副理事長</small> <b>村山 華奈</b> <small>くまもと副理事長</small> <b>沖仲 真理</b> <small>くまもと副理事長</small> <b>河添 文彦</b> <small>くまもと専務理事</small> <b>廣瀬 徳和</b> <small>くまもと専務理事</small> <b>奥田 富美子</b> <small>おおいた理事長</small> <b>本田 慎一</b> <small>おおいた専務理事</small> <b>川原 ひろみ</b> <small>かごしま理事長</small> <b>西村 大輔</b> <small>かごしま専務理事</small> <b>永野 清美</b> <small>みやざき理事長</small> <b>石打 寿</b> <small>みやざき専務理事</small> <b>片岡 宏明</b> <small>連合専務理事</small> <b>小笠原尚隆</b> <small>連合常務理事</small>	<b>村上 省三</b> <small>連合常務理事</small> <b>西村 茂樹</b> <small>共済連合会専務理事</small> <b>監事全体区</b> <b>堀井 信介</b> <small>ひろしま管理部長</small> <b>松井 啓子</b> <small>おおいた組合員事務局局長</small> <b>南 栄作</b> <small>くまもと常務理事</small> <b>菅嶋 敬代</b> <small>おおいた組合員事務局局長</small> <b>福永 大悟</b> <small>かごしま監事</small>	<b>退任される役員</b> <b>中村富美子</b> おおさか <b>長沼 浩美</b> ひょうご <b>坂口 陽子</b> おおかもと <b>相野 香加</b> とっとり <b>小松 尚美</b> ふくおか <b>佐枝 博子</b> くまもと <b>前田 博子</b> くまもと <b>杉尾紀美子</b> みやざき <b>藤みさき</b> ふくおか <b>水嶋 康彦</b> おおかもと <b>城戸 充博</b> おおかもと <b>大橋 寛</b> くまもと <b>長田 寛計</b> みやざき <b>西川 文恵</b> おおいた <small>生協名は一部省略しました</small>
--	--	---	---	--

2011年6月15日

グリーンコープ共同体第五期通常総会  
グリーンコープ連合第十九期通常総会  
グリーンコープ共済連第二期通常総会

# 共同体だからこそ描ける未来 グリーンコープ 助けあい支えあいを基に連帯を深め



選出された役員

## 共同体第五期通常総会スローガン

食べもの環境を育み、「助けあい、支えあう」生活協同組合として、より地域の中で組合員や市民が信頼を託しあえるグリーンコープへと向かっていきたいと思います。

東日本大震災によって被災された皆さんに向けて、生命に寄り添い、私たちの日常のまま、グリーンコープとしてグリーンコープらしく支援活動を継続していきましよう。

グリーンコープの食べもの運動として、「安心」「安全」な食べものを、「安定」して確保すること、そして多くの組合員の利用につながるように、できることを一つひとつ取り組んでいきたいと思います。

仲間づくりの輪を全力で広げ、組合員同士のコミュニケーションを創り出し、「いのち・自然・くらし」を守るグリーンコープ運動と事業をさらに推進させましよう。

協同していく地域と社会づくりに向けて、「抱樞館福岡」や生活再生事業、家計とくらしの応援活動、子育て応援、学校法人設立など、助けあいの運動と事業を、社会福祉法人グリーンコープそしてワーカースと共にすすめていきたいと思います。

全国のネットワークに連帯し、原発、遺伝子組み換え、地球温暖化などの社会的な問題に、生命を根幹にすえて取り組み、グリーンコープのできる場所から解決していきましよう。

民衆交易や互恵のためのアジア民衆基金などの取り組みを通して連帯・交流することで、「南と北」「北と北」の共生・連帯をさらにすすめていきたいと思います。

グリーンコープ共同体設立の願いを実現していくために、グリーンコープ運動をすすめる組合員組織と組合員事務局、職員事務局そしてワーカースそれぞれの主体の強化をすすめていきたいと思います。



組織委員長  
大橋 由美子さん  
極的に取り組んでいきます。

グリーンコープ運動の根幹をなす、せっけん、環境、脱原発、平和、アジアとの連帯について、活発に意見交換し情報を共有しました。6月にスタートした袋10袋の取り組みについては、一年を経過し、委員会での工場視察をもとに、組合員に呼びかけるチラシの検討を行いました。今後も、回収率を上げるために積極的に取り組んでいきます。



商品検討委員長  
手島 真理子さん  
心・安全に、大切に作りあげられていくことを実感しました。

2010年度は、意見の出しやすい委員会運営に努め、各単協での開発商品についてもオールグリーンコープの商品と受け止めて、積極的な意見交換ができました。加工米飯の新規メーカーである全国農協食品(株) 関東工場等を視察し、グリーンコープ商品が安心できることを確認しました。

## グリーンコープ共同体 委員会報告



福祉委員長松尾由紀さん  
欠席のため代読する  
田中 代表理事  
明るく、熱く、楽しんで福祉委員会を運営していきます。

グリーンコープの福祉の理念を学ぶ学習会・視察を行い、理解を深めました。単協ごとに経過や取り組みの違いがある中、各単協の福祉の取り組みについて共有しました。「個(孤)の社会」と言われる今、「助けあい、支えあう」地域社会の大切さが見直されています。

組合員みんなと、地域について共に考え、グリーンコープの福祉が、思いが、もつと拡がるよう、



商品おすすめ委員長  
阿部 恭子さん  
グリーンコープの商品の利用をすすめていきたいと思います。

産地との交流やメーカー視察に取り組んだようすを委員会で報告・共有し、単協での利用普及活動に生かしました。宮崎県での口蹄疫の発生後は、産直豚肉生産者・絞豚会のような共有し、利用を呼びかけました。産直豚肉の生産者やメーカーとの関係の

## 共同体総会議案採決の結果

代議員	198人	反対	保留	賛成
第一号議案	2010年度活動報告承認の件	0	0	多数
第二号議案	2010年度決算報告承認の件	0	0	多数
第三号議案	2011年度活動方針決定の件	0	0	多数
第四号議案	2011年度事業計画・予算決定の件	0	0	多数
第五号議案	お店共同購入に向かう件	0	0	多数
第六号議案	学校法人設立の件	0	3	多数
第七号議案	役員選任の件	0	0	多数
第八号議案	議案決議効力発生の件	0	0	多数

## グリーンコープ共済連第二期通常総会

グリーンコープ共済連は、2010年10月6日に創立総会を行い、グリーンコープ連合から共済事業を引き継ぎ、2011年3月21日より事業を開始しました。事業開始にあたっての整備をすすめた初年度を終括し、これからグリーンコープらしい共済事業を職員事務局とワーカースが手を携えて担っていくことを確認しました。

## 共済連総会議案採決の結果

代議員	193人	反対	保留	賛成
第一号議案	2010年度活動報告承認の件	0	0	多数
第二号議案	2010年度決算報告承認の件	0	0	多数
第三号議案	2011年度事業計画・予算決定の件	0	0	多数
第四号議案	総合共済事業規約変更の件	0	0	多数
第五号議案	子ども共済事業規約変更の件	0	0	多数
第六号議案	「公認会計士監査規則」廃止の件	0	0	多数
第七号議案	「監事監査規則」一部変更の件	0	0	多数
第八号議案	会計監査人選任の件	0	0	多数
第九号議案	役員選任の件	0	0	多数
第十号議案	役員報酬決定の件	0	1	多数
第十一号議案	議案決議効力発生の件	0	0	多数

## グリーンコープ連合第十九期通常総会 業務の高度化による経費削減と将来への準備をすすめました



グリーンコープ連合専務理事  
片岡 宏明さん

グリーンコープ連合は、2010年度、未曾有の経済危機に備え、生き残っていくことを第一に果敢に挑戦しました。

めとする大掛かりな物流再編をすすめました。

以上の取り組みの結果、供給高が予算(前年比97%)を大きく下回る(前年比94.2%)中でも、業務を拡大しつつ予算以上に経費を削減することができました。

しかし、一方では、除草剤を使用して栽培された産直米が「無農薬米」としてグリーンコープに出荷され、グリーンコープが組合員に供給したことに代表されるように、商品の事故も相次ぎました。二度と同様の事態を発生させないために、緊急お取引先説明会・緊急米生産者協議会を開催し、点検・確認の徹底をお願いしています。今後も単協、組合員に多大な迷惑を発生させる事故を無くしていくことに、今まで以上に取

## 連合総会議案採決の結果

代議員	193人	反対	保留	賛成
第一号議案	2010年度活動報告承認の件	0	0	多数
第二号議案	2010年度決算報告承認の件	0	0	多数
第三号議案	2011年度事業計画・予算決定の件	0	0	多数
第四号議案	定款変更の件	0	0	多数
第五号議案	総合共済事業規約廃止の件	0	0	多数
第六号議案	子ども共済事業規約廃止の件	0	0	多数
第七号議案	役員選任の件	0	0	多数
第八号議案	役員報酬決定の件	0	0	多数
第九号議案	議案決議効力発生の件	0	0	多数

紙から見直し高度化した結果、2009年度より更に約1億5900万円の経費を削減できました。また、「商品の改革・革新」「取引先との関係の再構築」をすすめて、商品価格を下げ、利用拡大をめざしました。その結果、「みんなで利用価格」は多くの組合員の支持を得ました。

また、あらゆる業務を白紙から見直し高度化した結果、2009年度より更に約1億5900万円の経費を削減できました。また、「商品の改革・革新」「取引先との関係の再構築」をすすめて、商品価格を下げ、利用拡大をめざしました。その結果、「みんなで利用価格」は多くの組合員の支持を得ました。

2011年度も、「具体的な行動を伴う危機感」を持って、常に自己改革に取り組んでいきます。

# を と伝えたい!

せっけんの歴史は紀元前3000年代のメソポタミア時代からです。神に捧げる生贄の羊が焼かれる際に、したたり落ちる油と木の木灰(アルカリ性)が混ざり合い土にしみこんだものがせっけんになったと言われています。環境がやさしく、自然の生態系を壊さないせっけんの安全性は、これまでずっと使われ続けてきたこの長い歴史に裏打ちされています。

グリーンコープでは、7月と10月の「シヤボン玉月間」を中心に、年間を通してせっけんのよさを広く組合員に伝えていきます。3月に共同組織委員会と各単協での取り組みを共有化する「委員会内せっけん学習会」が福岡市内で行われました。

また、5月には全国のせっけん運動をすすめる団体が集う「2011シヤボン玉フォーラムin埼玉」が開催されました。そのようすも併せて紹介します。

**委員会内  
せっけん学習会**  
2011年  
3月31日  
福岡市



各単協の組合員、共同組織委員など20人が参加。これまでグリーンコープが取り組んできたせっけん運動を再確認すると共に、単協での取り組みを紹介し、共有して今後につなげていく場となりました。

5つの単協の取り組みと、学習会のようすを報告します。

## せっけんのよさを自分の暮らしで

**グリーンコープのせっけん運動について**  
共同組織委員長 大橋由美子さん

1960年代「合成洗剤は人体にも、環境にもよくない。だから安全なせっけんを使いましょう」と、せっけん運動がすすめられ、グリーンコープ組合員も学習しながら広めてきました。当時のせっけんは溶けにくく、使いづらかったのですが、

改良を重ね、使いやすい商品を生み出してきました。今、私たちは学習会や取り組みで自分が感じたこと、分かったことなどの経験を、もとに、使いこなし方に母親の気持ちをプラスして、せっけんのよさを語っています。

**さ が**  
赤ちゃん連れのお母さんに  
せっけんが大好きな組合員を募集し、せっけんプロジェクトを立ち上げました。5月に「赤ちゃんせっけんプレゼント」募集をしました。当選者にはせっけんのサンプルと一緒に「やつぱり!せっけんー使いこなしハンドブック」、10月に行う「せっけん有料モニター」チラシを配布し、次の取り組みにつなげました。

今年は一連の取り組みをさらにすすめて、赤ちゃんのいるお母さんを対象に、子育てサロンのイメージで楽しくせっけんを伝える企画をしています。



黒瀬 幸子さん

### 地区の行事でせっけん学習会

**おおい**



矢野 絵理さん

組織委員や組合員と一緒にせっけん宣伝や利用普及に取り組みました。「せっけん学習会1時間プログラム」や「子ども向けせっけん学習会」を企画し、各地区でのせっけん学習会を開催する時の参考にしています。

「やつぱり!せっけんー使いこなしハンドブック」を中心に水環境の話や、せっけんと合成洗剤の違いを説明し、短時間で行える実験や実演、子ども向けには手洗い洗濯体験、手作りせっけん体験など5〜6種類のメニューの中から選択できるように企画しました。各地区での催しに合う内容を選んでもらい、せっけんの安全性、使い方を覚えてもらえるように工夫しています。

**がごしま**  
新規加入者向け講座  
新規加入組合員向けにせっけんの講座を開いています。加入して1年〜1年半の組合員に向けたウェルカムパーティーで、せっけんブースを設置しています。せっけんと合成洗剤の話や使い方の説明、せっけんや換気扇や魚焼きグリルなどを洗う実演などを行いました。サンプルとせっけんの使い方を載せた資料を配り、家に帰って使ってもらえるように工夫しました。



別府 靖代さん

### すぐに使えるせっけんキット

**やまぐち**



久保 かおりさん

地域組合員や新規加入者向けのグリーンパーティー、つどいの中でせっけんについて伝えていきます。会場での実演で示した汚れ落ちのよさに歓声が上がリ、それを実感してもらうために昨

年は粉せっけんや酸素系漂白剤をお湯で溶かすだけのパワフルつけおきキットを渡しました。家に帰ってすぐ実践できると大好評でした。

伝える私たちがせっけんを大好きになることが一番です。使ってみて、よかったと思うことを自分の言葉で組合員にすすめてきました。

**おが**  
粉せっけん  
8アイテムの裏面表示のリニューアル  
ふくおかでは「初めて粉せっけんを手にとった人でも簡単に使いこなせるように」と包材のリニューアルに取り組みました。基本的な使い方に加えて事前に泡だてる方法を紹介したり、見やすいようにレイアウトを工夫したりしました。これから組合員に伝える上で、これらを基本にすすめていきたいと思っています。



大橋 由美子さん

2011  
ン玉フォーラム  
n 埼玉  
月21日・22日

## 明日(みらい)のこのちのため

演  
方を選択一  
の活動報告)  
子参加企画)

師  
里さん  
学大学院  
究院環境  
学講座

21世紀は「環境の世紀」と言われています。私たち  
のまわりには多種多様な環  
響が出ない程度ですが、有  
害化学物質がまったく体内  
に入っていない人はいま



講師  
池川 明さん  
医学博士  
池川クリニック院長

# 大好きなせっけんもつと

7月は  
シャボン玉月間

## 第2分科会

### あんな・こんな せっけん運動の広め方

せっけんのよさを広める取り組みとして、埼玉のそうじワーカーズ・コレクティブ「きらら」が、せっけんを使った一般家庭や生協の配送センターの掃除、せっけんの使い方などの講習会、小学校の家庭科の「洗剤と環境」の授業の手伝いなどをして、多摩地区生活クラブ生協まち・小金井の「石けんポイントチーム」が地域のネットワークと一緒に、20年以上も行政へせっけん使用を働きかけているようすを報告しました。

グリーンコープかごしま生協からは新規加入者向けのせっけん講座についての報告がありました。グリーンコープに加入してせっけんを使い始めても、ちょっとしたコツが分からずにつまずくと、それからは使わなくなってしまうのがもったいないと、組合員が集うウェルカムパーティーの中で、合成洗剤とせっけんの違いを説明していること、せっけんの使い方のコツを伝えているようす



を、実演をまじえて説明しました。会場の参加者からの、「こういう取り組みに、お誘いしても、なかなか来てもう工夫しているのか」という質問に、「参加したくなるような試食や、楽しいチラシを作っています。ウェルカムパーティーの中でせっけんブースを作ってお話しているの、参加者には満足してもらっています。目標人数を決めて、自信を持って声をかけています」と応答がありました。

グリーンコープかごしま生協の「ぶくぶくせっけん」を使った茶渋の落とし方、トクトロせっけんを使った換気扇の掃除などを、実演すると納得してもらえます。また、洗濯は「泡で洗う」ということを分かってもらうために、硬度の違う水を用意してせっけんの溶け方、泡の立ち方も実験で見せています。自分の家の水の硬度、適切なせっけんの量を知ってもらうために、鹿児島市の地域別の水の硬度表なども用意すると、より分かってもらえます。

全国のせっけん運動に取り組む生協や団体が年に1回集う「シャボン玉フォーラム」が今年も開催されました。

1日目の全体会では、化学物質が環境や人間に与える影響について、医学的な立場から話がありました。2日目には7つの分科会が行われ、第2分科会では、さまざまな立場からのせっけん運動のすすめ方の報告がありました。また、交流会では被災地の団体に応援メッセージが渡されました。



- 1日目 全体会 第1部 基調講演 第2部 基調講演  
2日目 分科会  
第1 アジアの廃棄物(ごみ)-加害者にならない生き  
第2 あんな・こんな せっけん運動の広め方  
第3 CMに惑わされていませんか...?  
第4 プロによるせっけん洗濯の極技(こくわざ)伝授  
第5 Health & Beautyの視点から(生活クラブ埼玉)  
第6 水循環ゲーム・安全なシャボン玉を作ろう!(新)  
第7 もっと知りたい!羊水のお話し

## 全体会 第1部 基調講演

### 未来世代の健康と環境を基準とした予防医学



講 千 森  
千葉大 医学研究 教授

環境汚染物質が存在している。その多くが私たちの体内に取り込まれ、その影響が懸念されています。特に子どもや次世代への影響については、世界中が研究をすすめる方向に向かってきています。

たとえば化学物質に過敏な反応をするシックハウス症候群や、喘息などのアレルギー疾患も増えてきています。こうした新しい環境問題にどう向きあうかに、より多くの人が関心を持って社会のインフラ整備に取り組む必要があります。そうすれば、社会全体で次の世代の子どもたちにとって暮らしやすい社会をつくれるというような「環境改善型予防医学」の考え方が成立します。まさに「予防にまさる治療なし」です。

現代の社会で、ほとんど

ん。母親の体内の有害化学物質が胎児に影響を与えることは確認されています。出産時の「さい帯調査」によると、調査した全員にダイオキシンやPCBなどの有害化学物質が検出されました。有害化学物質は食べ物や飲みもの、空気から知らず知らず体内に入ってきています。現状を知って、食生活を変える、生活スタイルを見直すなど、なるべく取り込まないようにすべきだと考えます。

これからは、この問題に社会全体で対応し、化学物質をできる限り減らした街づくりを行い、次の世代にどう引き継ぐかが問われているのだと思います。

## 全体会 第2部 基調講演

### 羊水から合成洗剤の影響を考える

合成洗剤やシャンプーの成分が体内にどの程度取り込まれるかは、よく分かっていません。しかし、故・坂下菜さんの動物実験では、合成洗剤によってねずみの皮膚に異常が見られたことが報告されています。

赤ちゃんは羊水を飲んで尿として出しています。その量は妊娠後期には1日で羊水の半分が赤ちゃんを通して入れます。つまり、羊水を通して、お母さんと赤ちゃんはつながっているのですから、羊水はきれいなほうがいいのです。

妊娠のごく初期に、お母さんの体内で赤ちゃんのほとんどの臓器がつくられます。このことから、予防原則が大切だと思えます。日頃からこのことを考えて過ごすべきではないでしょうか。

## おもえ 重茂漁協にエールを



重茂漁協(岩手県) 盛合 敏子さん

3月11日の東日本大震災で、協石連加盟のいくつかの団体は大きな被害を受けました。今回の「シャボン玉フォーラム」開催が危ぶまれた時期もありました。中でも、昨年度開催地だった三陸わかめの産地である重茂漁協は、津波により壊滅的な被害を受けました。昨年、重茂漁協から今回の受け入れ団体である生活クラブ生協埼玉へ、エールを送って1枚の大漁旗が贈呈されました。重茂漁協では今回の震災で大漁旗もすべて流されてしまったため

に、大漁旗に生活クラブ生協埼玉で作ったもう1枚を添えて交流会で改めて重茂漁協に贈呈されました。会場ではカンパも行われました。

また被害を受けた岩手県宮城県、福島県、茨城県、千葉県等の仲間団体に向けて、参加者からの応援メッセージが渡されました。メッセージやカンパ金を会場で受け取った重茂漁協、アイコープみやぎ、生活クラブ岩手の代表に対して大きな応援の拍手が贈られました。

震災の後、3月末までは炊き出しなどが行われていましたが、その後、強い無力感に襲われました。自分には何もできないと思いました。「がんばろう!」という言葉も聞いても、とてもがんばれる気にはなれませんでした。しかしある時新聞に「がんばろうは「顔晴ろう」だ」とあるのを見て、これなら自分にもできるかもしれないと思いました。

養殖のワカメは全滅してしまいましたが、今日(5月21日)、震災後初めての天然ワカメの漁がありました。まずまずの収穫だったようで、安心しました。みなさんの支援に感謝します。

「シャボン玉フォーラム」は、協石連(協同組合石けん運動連絡会)加盟の団体から、毎年受け入れ団体を決めて持ち回りで開催されています。

# 換え問題への 取り組みを

- ① GM作物の自生や交雑・混入をなくす。
- ② GM生物への規制を強化させる。
- ③ 有機農業・環境保全型農業を推進する。

活動  
① 生物多様性条約、カルタヘナ議定書および名古屋・クアラ Lumpur プール補足議定書に対応した国内法の改正・整備に向け

た活動を行う。  
② 政府、国会、自治体へ働きかける。  
③ 情報を収集し発信する  
④ 国内外の個人・団体との協力の輪を広げる

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

グリーンコープは、遺伝子組み換え（以下、GM）食品に関して、人や環境に与える影響を危惧し、「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」と共に反対運動に取り組んでいます。2011年4月18日には、「GM綿の栽培中止を求める署名」を宮崎大学に、「GM作物栽培規制条例制定を求める署名」を宮崎県に届けました。

また、2010年10月に開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）／カルタヘナ議定書第5回締約国会議（MOP5）に向けて、2009年5月、「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」（MOP5市民ネット）を全国の同じ考えを持つ団体等と設立し、積極的に活動してきました。2011年6月11日、名古屋にて「MOP5市民ネット」の解散総会と「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク」（食農市民ネット）の設立総会が開催されました。総会には約60人（グリーンコープからは、組合員他12人）が参加しました。

MOP5市民ネット解散総会では、GM生物が引き起こす被害や損害などへの責任と修復を定めた「名古屋・クアラ Lumpur プール補足議定書」が採択されるなど、成果をあげることができたことを評価。しかし、「名古屋・クアラ Lumpur プール補足議定書」は、各国の国内法の制定に委ねられている。今後は国内法の改正や整備をするために、GM生物による被害を明らかにし、政府に政策の見直しを求めていく必要がある。そのために継続組織を設立することを採択し、解散総会は終了した。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

同日午後、「食農市民ネットワーク」の設立総会が開催され、解散総会が採択された。

会場からは、青森県の養鶏生産者から次のような意見が出された。「今回の東日本震災で飼料工場が被災し、non-GMOの飼料が1カ月間途絶えてしまった。その間、自分の所では備蓄していた飼料米を与えることで急場をしのぐことができた。しかし、GM飼料を使わざるを得ない状況は簡単に生まれる。飼料を含め食の自給率を高めるなど、この運動をもっと強めていかなければと思う」。生産者の切実な思いに会場からは拍手が沸いた。

また、共同代表・運営委員の紹介では、それぞれから抱負が述べられた。運営委員の一人であるグリーンコープ共同代表理事白木豊彦さんは「グリーンコープでは日本の農畜産業を応援し、自給率を高める運動に取り組んでいる。GM問題にも、より積極的に取り組むたい」と挨拶。最後に、設立総会アピールが採択され、参加者は今後の取り組みの重要性を改めて確認した。

※天笠啓祐さん（遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン）  
河田昌東さん（遺伝子組み換え食品を考える中部の会）

宮崎大学では、ドイツのバイエル・クロップサイエンス社との共同研究として、GM綿の実験栽培が行われている。2010年8月にはじまった実験は2012年5月まで続けられる予定だ。実験栽培の圃場は大学構内の一番奥にあり、バイエル社が開発した除草剤耐性と殺虫性の二つの性質を持つGM綿が栽培されている。

綿はオクラやハイビスカスと同じアオイ科の植物であり、周辺の農作物と交雑する可能性も否定できない。しかし、これまでに2度開かれた大学周辺住民への説明会は、開催されることとが周知徹底されないうまま行われており、住民の理解を十分得ているとは言い難い状況である。

グリーンコープの各生協では、2010年12月よりこのGM綿の実験栽培の中止を求める署名運動に取り組んだ。2011年3月末までに他団体から届けられたものを含め、170万人近くの署名が集まった。日本有数の農畜産物の生産県である宮崎県でのGM綿の実験栽培に対して、全国から多くの心配の声が寄せられる結果となった。

4月18日、グリーンコープ生協みやざきと綾町のグリーンコープの産直生産者で構成する「ストップGM宮崎連絡会」は遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンと共に、全国から集まった署名を提出するために宮崎大学と宮崎県庁を訪問した。

宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

## 次のステップへすすむ

### MOP5市民ネットの解散と食農市民ネットの設立



グリーンコープ生協みやざき理事長の永野さん（写真左）は宮崎県農政水産部の緒方次長（写真右）に署名を手渡した



宮崎大学へ署名提出に向かうストップGMO宮崎連絡会と遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンのメンバー

宮崎県あて		宮崎大学あて	
個人署名	73,050筆	個人署名	71,964筆
団体署名	962団体	団体署名	975団体
	1,615,483人		1,662,813人

2011年4月18日提出

## 宮崎大学でのGM綿実験栽培に対し中止を求める多くの声を届けました

### 全国から集まった署名

宮崎大学では、ドイツのバイエル・クロップサイエンス社との共同研究として、GM綿の実験栽培が行われている。2010年8月にはじまった実験は2012年5月まで続けられる予定だ。実験栽培の圃場は大学構内の一番奥にあり、バイエル社が開発した除草剤耐性と殺虫性の二つの性質を持つGM綿が栽培されている。

綿はオクラやハイビスカスと同じアオイ科の植物であり、周辺の農作物と交雑する可能性も否定できない。しかし、これまでに2度開かれた大学周辺住民への説明会は、開催されることとが周知徹底されないうまま行われており、住民の理解を十分得ているとは言い難い状況である。

グリーンコープの各生協では、2010年12月よりこのGM綿の実験栽培の中止を求める署名運動に取り組んだ。2011年3月末までに他団体から届けられたものを含め、170万人近くの署名が集まった。日本有数の農畜産物の生産県である宮崎県でのGM綿の実験栽培に対して、全国から多くの心配の声が寄せられる結果となった。

4月18日、グリーンコープ生協みやざきと綾町のグリーンコープの産直生産者で構成する「ストップGM宮崎連絡会」は遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンと共に、全国から集まった署名を提出するために宮崎大学と宮崎県庁を訪問した。

次に訪問した宮崎県庁では、永野さんが「宮崎県は安心・安全な食料の供給を全国から期待されている。」

※宮崎大学でのGM綿栽培実験に反対する活動のため、2010年10月に設立。2008年に綾町で開催されたGMOフリーゾーン全国集会の実行委員会を母体に、綾町、JA綾町、グリーンコープ産直生産者の綾町会、綾菜会とグリーンコープ生協みやざきで構成されている。GM作物の栽培をしない、させないことをめざして活動しており、2010年11月30日に宮崎市にてGM作物に関する講演会を開催した



# さらに強めよう！遺伝子組み

## アピール

3月11日に起きた原発事故が、日本列島を広範囲に放射能で汚染しました。放射性物質は生命体と相入れず、しかも生態系を通して生体内に濃縮されていきます。そのため多くの命の芽が奪われ、生物多様性は危機的な状況に陥っています。しかも、その汚染は、めぐりめぐって私たちの体内に取り込まれ、その影響は未来を担う世代に特に強く影響します。

しかも、この放射能汚染は、私たちの大事な食べ物を汚染し、農畜産業や漁業に大きなダメージをあたえました。汚染した作物を扱って、ともに被害者である生産者と消費者が、不幸なことに対立しあう関係に陥っています。また、私たちが築いてきた提携・産直など顔の見える関係に危機的な状況をもたらしています。有機農業など安全で安心できる作物を提供してきた農家から希望を奪いました。

さらには、安全性に問題が多い輸入食品の増大を招き、\*TPP加盟への道を切り開いています。このような危機的な状況をもたらしたのは原発です。すべての原発を停止させ、廃炉にしていかなければ、同じことが繰り返されます。

原発を推進する電力産業、それを支える政府と学者、マスコミという構造が「安全神話」を作り出し、事故を引き起こしました。その構造は、遺伝子組み換え生物（GMO）にも共通しています。もし事故などで大規模なGMO汚染を引き起こせば、生物は自己増殖することから、放射能汚染と同様、あるいはそれ以上に、環境を破壊し、私たちの健康を脅かすことになりかねません。第一次産業に大きなダメージをもたらす、国内自給、地産地消、循環型社会など、私たちがこれまで取り組んできた運動が崩壊の危機に瀕する可能性があります。

放射能汚染がもたらした危機は、遺伝子組み換え作物がもたらす危機の構造を浮かび上がらせたといえます。これまで私たちが作ってきた生産者と消費者の固い絆をもう一度確かめ合い、ともに支え合い、手を携えて、放射能汚染をもたらした電力会社や政府に脱原発の声を届けていきましょう。

遺伝子組み換え作物・食品に対しては事故や汚染をこれ以上起こさせないよう、厳しい規制の仕組みを作らせましょう。生産者と消費者が一緒になって、この危機を乗り越え、国内の農畜産業・漁業を守り、生物多様性を守り、未来の世代が安心して暮らせる社会を作っていきます。

2011年6月11日

食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク（食農市民ネット）

\*環太平洋戦略的経済連携協定。太平洋周辺の国々の間で、人、物、サービス、金の移動をほぼ完全に自由にしようという国際協定



会場では、熱心な検討が行われた

### 暴走が懸念されるGM生物

設立総会終了後、共同代表天笠啓祐さんから「食と農の危機 放射能と遺伝子組み換え」というテーマで左記の話があった。

東日本大震災による原発事故で放射能汚染によって国内のものが食べられない可能性があることから、輸入食品が増えてしまう。産直や国産のものを大切にしているわれわれにとつては大きな問題。また、農作物などの放射能汚染は、生産者と消費者の対立関係をつくりがちなことでも危惧される。

GM技術と原発は双子の

兄弟とも言える。原爆を開発した物理学者たちは原発の開発後、生命の分野の研究に流れ込む。そこで確立されたのが分子生物学で、そこからGM技術が誕生した。政府・企業・学者が一体となつて安全神話をつくりだしているということも、原子力問題と同様だ。しかも化学物質は徐々に毒性が減っていくが、GM生物は細胞分裂により増える可能性が大きく問題はさらに深刻だ。

2009年にアメリカ環境医学会は、GM食品を食べた場合、免疫機能や生殖、出産への悪影響・解毒作用のある臓器を害する恐れがある

### 農民の権利と誇り

あると発表された。GM作物に使われる除草剤や殺虫毒素が人体に残留することも分かっている。最近沖縄でパイナップル汚染が起き、刈り取らねばならない事態が発生している。現地の農家は大きな被害を受けている。MOPP5で獲得した「責任と修復」で、企業の賠償責任を求め、企業が賠償責任を求められる仕組みができる。それを有効に生かしていくために運動の強化が必要だ。

映画「パーシー・シュマイザー モンサントとたたかう」の紹介と上映があった。風で飛ばされてきたGM

M種子に自家採種の種子から育てていた菜種畑を汚染されたカナダの農民パーシー・シュマイザーさんが、巨大な多国籍化学企業モンサント社からGMの特許侵害で訴えられる。シュマイザーさんは裁判を続け、一度契約してしまえば、GM種子も、農薬もモンサント社からしか購入できないという農業支配の謀略に対し、農民としての誇りと権利をかけて戦っているというドキュメントだ。現在、大学生たちによる自主上映会などが行われ、この映画の上映は少しずつ広がっている。

## MOPP5市民ネットのこれまでの活動を振り返って (集会報告)

2009年5月 MOPP5市民ネット立ち上げ集会

GM作物の自生や交雑・混入をなくし生物多様性を守ることや、有機農業・環境保全型農業を推進し食の安全を守る。GM生物の輸出入に関する国際的取り決めであるMOPP5に照準を合わせて活動することを確認した。

2009年10月 2010年COP10/MOPP5 1年前記念集会

クリスティーヌ・フォン・ヴァイツゼッカーさん(ドイツの環境NGO代表)は、MOPP5の課題である「予防原則」や「責任と修復」などの成立には市民の力が必要と講演。2009年度GMナタネ自生調査結果のグリーンコープなどの報告があった。COP10とMOPP5に向けてのアピールの採択を行う。

2010年10月10~11日

ブラネットダイバーシティイベントとパレード(10日)・ブラネットダイバーシティフォーラム(11日)

地球の多様性を祝おう！《生物多様性を守る食と農—GMOのない世界をめざして》というテーマで、開催中のCOP10とMOPP5に対して、市民やNGOと共にアピールを行う。

2010年10月16日

カルタヘナ議定書第5回締約国会議報告と「もうひとつの世界食料デー」

MOPP5で採択された「名古屋・クアラルンプール補定議定書」に関する声明を発表。南アフリカのNGOからGMOの状況の報告などを行った。

2010年12月

GMOをめぐる国際会議報告集会

MOPP5での成果と課題についての報告と意見交換を行う。

※日常的には、ロビー活動や院内学習会、議員との意見交換、関係省庁との協議などにも取り組んだ。

## —— 東日本大震災にともなう東京電力福島第一原子力発電所の事故に関する特別決議 ——

2011年6月15日  
グリーンコープ共同体  
第五期通常総会  
特別決議

**後悔しても間に合わないことですが、放射能に被曝することを覚悟しなければ、食べものを口にできない事態が私たちの目の前に迫りつつあります。この事実を組合員みんなで正確に共有し、その上で渾身の知恵を振り絞りあって、生命を守るために助けあっていきましょう。**

**2** 011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が東日本一帯（岩手県・宮城県・福島県・茨城県など）を襲いました。そして、その30～40分後、巨大地震にともなう巨大津波が東日本一帯（同上）を襲いました。そして、この巨大な地震と津波の後には一面の瓦礫の山しか残されませんでした。死者は15,202人、行方不明者は8,718人、家を失うなどのために避難している人は11万5,433人にのぼります（5月24日現在）。お亡くなりになられた皆さんのご冥福をお祈りし、また行方の知らない皆さんのご無事を衷心から願うとともに、被災された皆さんに心からのお見舞いを申し上げます。

**し** かし、この巨大な地震と津波が東日本一帯（同上）にもたらした災厄は、これとどまりませんでした。地震襲来の約1時間後、3月11日午後3時42分、東京電力福島第一原子力発電所は襲来した津波で内外の電源のすべてを喪失し、1号機・2号機・3号機の原子炉は制御不能に陥り、翌12日午前6時50分頃、まず1号機の原子炉がメルトダウン（炉心熔融）し、14日午前3時頃、3号機の原子炉がつぎにメルトダウン（炉心熔融）し、15日午後8時頃、2号機の原子炉が最後にメルトダウン（炉心熔融）し、核燃料の大部分は溶けて压力容器底部に落下し、落下した核燃料はその高温で压力容器底部を溶かし、その一部は格納容器に落下し、その高温で格納容器をも溶かしていることが明らかになりました。つまり、溶けた核燃料は遮蔽するものか何もない状態で、環境（大気・水・大地）と直接接触し、放射性物質を放出し続けていることが明らかになりました。

**し** かし、そうした事実にも増して深刻なことは、原子炉がメルトダウン（炉心熔融）した事実が5月15日まで、政府と東京電力によって隠蔽されてきたことです。2・3号機のメルトダウン（炉心熔融）の事実には、それが公表されたのは5月24日でした。すなわち、福島原発で水素爆発が起きたことは、原子炉建屋が吹き飛ばされていますし、その光景がテレビでも放映されていましたので、隠すことができません。そのため、政府と東京電力は渋々でしたが、水素爆発が東京電力福島第一原子力発電所で起きたことは認めました。ところが、原子炉1号機がメルトダウン（炉心熔融）している事実は、事故から2ヵ月余が経過する5月15日まで、明らかにしませんでした。そして、原子炉2・3号機のメルトダウン（炉心熔融）の事実には、それが公表されたのは5月24日でした。本当に許されないことです。

**原** 子炉は自動停止しても、核分裂生成物質（各種の放射性原子）が放出し続ける原子核崩壊熱は、原子炉停止1日後で、1万5,560キロワットもあります。そのため、原子炉を冷却するための電源のすべてを失い、原子炉を冷却できなくなった東京電力福島第一原子力発電所は、核分裂生成物質（各種の放射性原子）が放出し続ける原子核崩壊熱で核燃料が熔融し、熔融した核燃料は压力容器の底部に溶け落ち、集合し、核爆発を引き起こす可能性の中にあったのです。

**ウ** ランの原子核に中性子を撃ち込みますと、ウランの原子核が分裂し、核分裂生成物質（各種の放射性原子）が生成されると同時に、大きなエネルギー（熱）が発生・放出されます。そして、中性子を撃ち込まれて、ウランの原子核が核分裂反応を引き起こす場合、ウランの原子核は2個以上の中性子を放出・発射します。ですから、1・2・4・8・16・32・64・128・256・512・1024・2048・・・という要領で核分裂反応が瞬間的に連鎖・連続して発生してしまふこととなります。そして、このようにウランの核分裂反応が瞬間的に連鎖・連続させたものこそが原子爆弾にほかなりません。

**原** 子力発電所の場合、核分裂反応がそのように瞬間的に連鎖・連続してしまえば、原子炉そのものが核爆弾になってしまいますから、ウランの原子核から放出・発射される2個以上の中性子のうち、1個だけを生かして、それ以上の中性子はホウ酸などで捕捉し、ウランの核分裂反応が中性子1個に対して1回だけしか発生しないように制御することになっています。ところが、压力容器底部に溶け落ちてしまった核燃料は制御不可能な状態にありますから、溶け落ちた核燃料中のウラン原子が1個でも核分裂すれば、核分裂反応が瞬間的に連鎖・連続し、核爆発を引き起こす可能性があったのです。ただし、今回の東京電力福島第一原子力発電所のメルトダウン（炉心熔融）事故のケースでは、核爆発が引き起こされることはありませんでした。

**し** かし、東京電力福島第一原子力発電所の1・2・3号機の原子炉がメルトダウン（炉心熔融）している事実が明らかになった以上、溶けた核燃料は压力容器も、そして格納容器も溶かし、壊れてしまっていることは間違いないことです。つまり、溶けた核燃料は压力容器や格納容器の中に納まっているおらず、環境（大気や大地、そして水）と直接に接触する状況下に置かれています。つまり、大気や水を介して、放射性物質が環境中に漏出することを防止する方法はもはや失われています。つまり、原子炉から放射性物質が漏れ出し続けており、漏れ出した放射性物質が毎日、大気と水と大地を汚染し続けているのです。にもかかわらず、政府と東京電力に当面できることは、溶けた核燃料に水を注ぐことだけです。

**今** から32年前（1979年）に発生した米国のスリーマイル島の原発事故では、溶け溶けた核燃料の表面は冷えて固まっているものの、その内部では今でも発熱を続けているそうです。ですから、東京電力福島第一原子力発電所の1号機・2号機・3号機で溶け落ちている核燃料も、これから何十年も水をかけ続けるしか方策はないはずですが、私たちにとってのこれからの問題は、溶けた核燃料が放出し続ける放射性物質がどこ

まで拡散していくのか、ということです。压力容器や格納容器で遮蔽されていないわけですから、大気や水を媒介にして、溶けた核燃料はこれから長い間、放射性物質を放出し続けることとなります。そして、そのことはこれから、東日本と首都圏の放射能汚染がどんどんと深刻化することを意味しています。また、そのことは今後、西日本・九州でも放射能汚染が深刻化することを意味しています。しかし、そうだとすると、もはや後悔しても遅いのです。溶けた核燃料を遮蔽し、溶けた核燃料が放出し続ける放射性物質が環境（大気・水・大地）と接触する道を遮断しない限り、東日本と首都圏、そして西日本・九州、つまり、日本と地球は放射性物質に汚染され続けていくこととなります。

**今** から25年前の1986年4月26日、ウクライナ（旧ソ連）のチェルノブイリ原子力発電所4号機がメルトダウン（炉心熔融）した後に爆発し、広島型原爆500発分の放射性物質がウクライナを中心に、ロシア・ベラルーシ、そしてヨーロッパなどを広く汚染する事故がありました。グリーンコープはその際、「アクション（当該商品の供給の是非を理事会で検討を開始する）レベル」としての自主基準を「10ベクレル」と決定しました。その趣旨は言うまでもなく、「10ベクレル」以下であれば安全である、ということではありません。何故なら、放射性物質に「安全な量」などはないからです。

**し** かし、環境（大気と大地と水）が放射性物質に汚染されてしまえば、放射性物質に汚染されていない食べものを手に入れることができなくなります。そして、当時、ロシアやベラルーシ、そしてヨーロッパなどはそうした状況下にありました。つまり、ロシア・ベラルーシ・ヨーロッパなどは食べずに飢えるか、食べて放射能に被曝するか、という選択肢しか残されていませんでした。しかし当時、日本はウクライナ（旧ソ連）から遠く離れていましたので、努力すれば「10ベクレル」以下の食べものを確保できる見とおしがありました。そこで、グリーンコープは「10ベクレル」以下という自主基準を決定し、努力し、この「自主基準」を守りとおすことができました。

**し** かし今回は、東京電力福島第一原子力発電所の1・2・3号機の原子炉がメルトダウン（炉心熔融）していることが明らかになっています。そして、溶けた核燃料が環境（大気・水・大地）から遮蔽されていないこと、遮蔽する目途は当面はないことが明らかになっています。したがって、今回は「10ベクレル」という自主基準をグリーンコープは守りとおすことができない、もしくは、守りとおすことがとても困難になっている、という可能性が極めて高いと判断せざるを得ません。何故なら、溶けた核燃料は高濃度の放射性物質を放出し続けているからです。放出された放射性物質は大気を介して、空気中に拡散し続けています。また、高濃度に汚染された水がどこから漏出するのかわからないことです。

**先** 日（5月11日）、神奈川県で生産されたお茶が放射性物質に汚染され、出荷できなくなりました。大気に運ばれた放射性物質が箱根の山にぶつかり、神奈川県側に降りそいで、お茶を汚染したらしいということですが、早晚、放射性物質は箱根の山を越え、静岡県側のお茶を汚染するはずですが、そして、時間の経過とともに、関西、そして九州に近づいてくるはずですが、ですから、溶けた核燃料が環境（大気・水・大地）から遮蔽されない限り、早晚、西日本・九州の大地と水、そして海も、放射性物質に汚染されることから免れられないはずですが。

**グ** リーンコープは、今回の東京電力福島第一原子力発電所の事故に際して、4月6日、グリーンコープ共同体理事会で「自主基準（アクションレベル）はこれまでどおり（10ベクレル）とする」ことを決定しました。しかし、今回は次の一条を追加しておりました。すなわち、「東京電力福島第一原子力発電所事故がこれ以上、日本の大気と水と大地を汚染しない限り」です。何故なら、原発事故がこれ以上、日本の大気と水と大地、とりわけ西日本・九州の大気と水と大地を放射性物質で汚染することになれば、自主基準（アクションレベル）としての「10ベクレル」は意味を失い、守れなくなると考えられたからです。

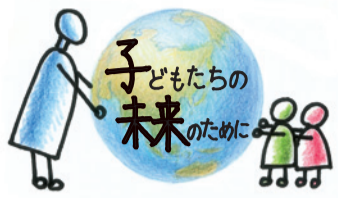
**人** 間は、それしか食べるものがなければ、食べるほかはありません。汚染の濃度にもよりますが、人間は放射性物質で汚染された食べものを食べても、すぐには死にません。しかし、食べものを口にしなければ、人間は間違いなく飢え、そして死にます。ですから私たちは、日本の大気と大地と水がこれ以上、とりわけ西日本・九州の大気と水と大地がこれ以上放射性物質で汚染されることになれば、「10ベクレル」という自主基準（アクションレベル）は意味を失うことになると考えていました。つまり、私たちはその意味で、4月6日の時点で、放射能に被曝することを覚悟しなければ、食べものを口にできない事態が目の前に迫りつつあると考えていました。

**し** かし、東京電力福島第一原子力発電所の1・2・3号機の原子炉がメルトダウン（炉心熔融）し、溶けた核燃料と環境（大気・水・大地）が直接接触していること、そして、遮蔽する方法は当面はないことが明らかになった今は、その可能性が一層高まっていると考えざるを得ません。私たちはしたがって、この事実を組合員みんなで正確に共有し、その上で渾身の知恵を振り絞りあって、生命を守るために助けあっていくべきであると考えます。グリーンコープ40万人組合員の理解と呼応を心からお願いします。

以上、特別決議する。

2011年6月15日

グリーンコープ共同体第五期通常総会



No.35

地震国日本における原子力発電所の危険性

日本は世界でも飛び抜けた地震多発国です。国が国策としてやってきたことで、電力会社は、原発をすすめてきました。しかし、その安全神話は、本年3月11日に発生した東日本大震災による原発事故でもろくも崩れ去りました。耐震基準などの基準自体が甘かったことが露呈されたことは周知のことです。

1995年の阪神・淡路大震災から日本は地震の活動期に入ったといわれます。西南日本を縦断する中央構造線は巨大地震を引き起こす世界最大級の活断層なのです。地震による原発事故の恐怖から逃れられない、こんな危険なものを次の世代に残すことはできません。原子力に頼らないエネルギー政策のあり方について真剣に知恵をしぼる時です。

参考文献：「原子炉時限爆弾 大地震におびえる日本列島」 広瀬隆 著
グリーンコープ共同体組織委員会

東京電力の原子力発電所の事故を受けて行った残留放射能検査結果②

5月9日～6月20日に検査した44品目のうち、1品目・国産牛赤身切り落とし(小分けロール)原料肉からセシウム134とセシウム137合わせて11ベクレル(Bq)/kgと、グリーンコープの暫定基準値を超える残留放射能が検出されました。

放射能物質が「ゼロ」でない限り絶対に安全とは言えません。今回の11ベクレル(Bq)/kgの放射能の強さは、毎日100gを365日食べ続けたと仮定した場合、0.0052ミリシーベルトの被曝に相当します(胃のX線検診1回が、0.6ミリシーベルト程度とされています)。情報をきちんと公開しながら、商品の供給は継続するという判断をしています。

さらに、9品目については、グリーンコープの暫定基準値(10ベクレル(Bq)/kg)内ですが、残留放射能が検出されています。検査対象エリアは、大気中の「環境放射能水準調査結果」(文部科学省より公表)を基礎に、通常レベルより高いエリアにしていました。今後は、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く取り入れる食品やしいたげなど放射性物質が蓄積しやすい商品も検査していくことにしています。

なお、放射性セシウムについての国の暫定基準は、飲料・牛乳・乳製品が200ベクレル(Bq)/kg、それ以外の肉・野菜などが500ベクレル(Bq)/kgとなっています。

Table with 10 columns: 商品名, 製造日等, 検査日(送出し日), 放射能検査結果 (セシウム134(Bq/kg), セシウム137(Bq/kg)), 商品名, 製造日等, 検査日(送出し日), 放射能検査結果 (セシウム134(Bq/kg), セシウム137(Bq/kg)). Rows list various food items like rice, vegetables, and meat with their respective radiation test results.

<検査対象エリア> グリーンコープは商品や原料について放射能汚染が心配される地域を関東から南東北地方と考えています。文部科学省から出されている(新聞で報道されている)大気中の「環境放射能水準調査結果」を基礎に、通常レベルより高いエリアについて念のため検査対象としています。なお、対象エリア以外の商品でも、牛乳など日常的に多く取り入れる商品及びしいたげ等放射性物質が蓄積しやすい商品は検査することにしています。

※水産物については、近隣海域の放射能汚染状況が調査・公表されますので、その情報などをもとに漁獲海域によって、残留放射能検査をする対象を判断していきます。

<検査対象> 3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。

<検査機関・検査日> 「放射能汚染食品測定室」で行いました。表中の「検査出荷日」は検査のためにグリーンコープから、測定室に検体が発送された日です。到着後、2日以内に検査を行っています。

<今後の報告について> ・毎月、共生の時代で報告します。(ホームページには、週単位で掲載します)

・グリーンコープの基準値(放射性セシウム10ベクレル/kg)を超える残留放射能が検出された場合は直ちに報告します。

※表中の「ND」は、検出限界値(1ベクレル/kg)以下です。

いま地域を考える

No.214

高齢者がいきいきと 楽しく暮らせる地域をつくりたい

いきいきボランティアくらぶ



左から、小出眞理子さん、菊堂君代さん、福本幸子さん



南米の音楽会を演奏したグループ「folklor」



折り紙の講習を熱心に受ける参加者たち

毎月第一日曜日、グリーンコープのデイサービスセンター小倉北で、地域のお年寄りを対象にした「プリティサロン」が開催されています。音楽や体操などのイベントを楽しみ、手作りのおいしい食事が振舞われ、参加者の憩いの場となっています。

手料理を持ち寄り 楽しいひととき

「いきいきボランティアくらぶ（以下、ボランティアくらぶ）」が発足したのは、2010年2月。菊堂さんは組合員活動を引退し平穩に過ごしていたが、「今の平凡な生き方でいいの、元気がうちにないかできないか」という思いに至った。そこで、組合員活動時代の仲間、福本さん、小出さんと相談、月に一度食事をすることにした。当時の仲間にも呼びかけ10人ほどが集まった。年齢は60、70代。場所はグリーンコープの小倉北デイサービスセンターの1室を借りることに。順番で3人ほどが当番となり手料理を持ち寄る。「みんなでは食べべながら話をするのが楽しいの。昔話に花を咲かせたり、これからの話をしたりね」と菊堂さんたち。

地域の高齢者に 輪を広げたい

サポーター養成講座を受講するなど、勉強会なども行う。 菊堂さんは、生協の創成期から活動を続け、共生社生協北九州の理事長の任を担ったこともある。理事長退任後、家事支援サービスのワーカーズ立ち上げに参加、福祉ワーカーズ連絡会の2代目代表も務めた。高齢者福祉に対する思いは強い。ボランティアくらぶのメンバーも、ほとんどがヘルパーの資格を持っている。ボランティアくらぶで楽しい時間を過ごすうち、メンバーたちは、「せつかくの楽しい時間、自分たちだけで楽しむのはもったいない、この輪を地域の中に広げよう」と考えた。そこで、ボランティアくらぶの定例会とは別に、地域の高齢者が参加できる会を開くことに。デイサービスセンターやワーカーズとも連携した活動にしたいと、グリーンコープ生協ふくおかに協力を要請。ふくおかの委託事業として助成金を受け、2010年11月から「プリティサロン」を開催することにした。300円の参加費で、地域の65歳以上で介護保険サービスを受けていない人なら誰でも参加することができる。



2010年12月のプリティサロンの料理は、クリスマスメニューだった

2011年5月の組合員数 396299人 (5/20現在)

Table with recycling and energy data. Columns include リユースリサイクルデータ (2011年4月分), リユースびん, モールドパック, 牛乳びん, トレー, 仕分け袋, フードマイレージ (2011年5月までに組合員の利用によってたまったのは), アジア民衆基金 (2011年5月までに組合員の利用によってたまったのは).

放射能汚染測定結果報告(211) 2011年4月

Table with radiation measurement results. Columns include 検体名, 産地, セシウム134, セシウム137, 合計ベクレル/kg. Rows include エコシュリンプ, ゴマ油, ホワイトソフトマーガリン.

お詫びと訂正 共生の時代6月号4面の本文三段目中ほどの記事、「原発の燃料となるウラン238の半減期が45億年〜」の下線部は「ウラン235」、「7億年」の誤りでした。お詫びして訂正します。

一人で参加しても 楽しめる場に

開催に当たりチラシを作った人に配ったり、地域の家を戸別訪問して参加を呼びかけた。メンバーは皆かつて組合員拡大の取り組みをした経験者。「みんな慣れているもの。ピンポン押して訪ねるなんて平気よ」。

できる範囲で 活動を広げたい

プリティサロンは毎回好評で、参加者からはもっと回数を増やしてほしいなどの要望も出ている。手伝いに参加してもいいと言う人も出てきた。「いつもおいしいものを食べさせてもらってよかった」という参加者の声に励まされるというメンバーたち。

孤独な高齢者が増えている。「食べることは人間に一生ついてくること。月に一度でも楽しく食事することができたら」、「ここにきて、一人でも楽しんでいてほしい」とそんな思いでこれからも続けていきたいと考えている。「集まって食べてしゃべる。これが一番のストレス解消だからね」と3人は口々に言った。

「みなさん選層を過ぎた方ばかり。障がいのある方もいる。お互いに許しあい、できる範囲のことをすることが会の目的」と菊堂さん。「今、グリーンコープで現役で活動している人に引退したら加わってもらおうよ」と声をかけている。そうしたら、開催場所も広げて、次の世代に引き渡していきたい」と菊堂さんが言う。福本さんと小出さんは「ず

つとやるんでしょ」「生涯現役でしょ」と念を押す。これからは、「参加者同士が友だちになって、その輪が広がっていく」と小出さん。菊堂さんは「将来的には、プリティサロンの参加者同士で自発的に何かをしようということが起こってこれればいいな。それが地域福祉だと思う」と夢はふくらむ。

※1993年に採択されたグリーンコープの「地域福祉」「環境・農業」「教育・文化」の活動の将来構想。菊堂さんは当時理事長として「夢ヲかたちにつくったメンバーだった